

円山川流域委員会での委員の意見一覧

(委員会、アンケート、ヒアリングから)

これまでに開催された委員会(計 10 回)で述べられた意見、アンケート結果(計 2 回)及びヒアリング結果から、委員が望んでいる円山川のあるべき姿に関する意見、また、今後検討すべき点等に関する意見を一覧としてまとめました。

なお、同様及び類似する意見は、まとめるようにしました。
先頭の 数字は意見番号です。

【委員会での意見】

- 1 下流の河床勾配は非常に緩く、上流は急勾配
- 2 軟弱地盤と地盤沈下
- 3 直轄上流部、下流部の無堤地区の治水対策
- 4 近畿管内の主要河川の中でもかなり良好な水質
- 5 ある程度までは水が溢れることを許容した治水
- 6 下流域には、非常に豊かな自然が残っている
- 7 流域住民の改修要望はどのようなものか
- 8 自然をある程度残した川づくり
- 9 サケが遡上する自然豊かな円山川、水質の良い円山川
- 10 流域面積の割には距離の短い川
- 11 治水という中にどれだけ環境、文化、営みなどを取り込めるのか
- 12 すり鉢のように水が集まってくる状況にある流域
- 13 現在の整備のもととなる計画(工事实施基本計画)
- 14 兵庫県が実施している整備に関する計画
- 15 流域の 86%が山地で、そのうち 60%が人工林
- 16 過疎と労働力不足で山林の手入れがままならない
- 17 近畿地方でも有数の規模を誇る上ノ郷の河畔林
- 18 上ノ郷の河畔林の景観の保全
- 19 利水上重要施設である蓼川井堰
- 20 農林水産業に関連する文化的景観である蓼川井堰
- 21 魚道はあるが魚が遡上できない蓼川井堰
- 22 河道の単調化による産卵場、生息場の減少
- 23 土渚周辺の景観の悪化
- 24 道路の整備や架橋による舟運の衰退
- 25 下流の河床勾配は緩く、渇水時には取水困難な状況
- 26 旧円山川の景観
- 27 中流部の未整備堤防区間(弱小堤防)

- 28 洪水時に危険な状態となる橋梁（KTR、鶴岡橋、鳥居橋、奈佐小橋）
- 29 洪水によって維持されている生き物
- 30 汽水域の広いヨシ原とそこに住む生物
- 31 自然環境に配慮した治水事業（ひのそ島掘削、野上の湿地）
- 32 地盤沈下対策と堤防強化
- 33 穏やかな水面を利用したボート、カヌーなどの利用
- 34 自然豊かな護岸整備の推進
- 35 子供が遊べる環境が川と道路で奪われていること
- 36 農林水産業に関連する文化的景観の複合的景観としての円山川
- 37 農林水産業に関連する文化的景観である戸島
- 38 身近な植物が絶滅に瀕し、希少な植物となっている
- 39 山地の状況と上流からの土砂供給の変化
- 40 地域社会の基盤として、川がもたらしている豊かさ
- 41 上流域と下流域の連携
- 42 下流右岸の道路の工事による景観の悪化
- 43 災害が起きたら被害をいかに少なくするかという発想
- 44 上流域は標高 1,000 ~ 1,500mの山地がある
- 45 流域の平野部は、豊岡盆地を中心とした穀倉地帯
- 46 本川の勾配は緩いが、支川の勾配は急である
- 47 市民の憩いの場としての河川（旧円山川）
- 48 円山川の堤防整備率はかなり低い
- 49 上流部の低い流下能力（無堤）
- 50 下流部の低い流下能力（戸島、ひのそ島、無堤）
- 51 河口から 15 ~ 16km までは落差がなく、洪水時に水が流れにくい
- 52 上流域の変化に対する下流域への影響（河川改修、都市化など）
- 53 遊水地に対する考え方
- 54 災害対策マニュアルなどのソフト的な対応
- 55 地域の人達がどのように水害に対応してきたのか
- 56 地域住民が住みやすい整備（豊岡～城崎間の道路を例として）
- 57 上流域の棚田、山田を利用しなくなった
- 58 林床の草本類が育たない状況、保水力不足（間伐不足・鹿の食害）
- 59 木材価格の下落による山林の管理不足
- 60 生物に配慮した工法（建屋川）
- 61 住民に川をどう提供し、生活、レジャーに使ってもらうか
- 62 治水重視の従来型計画に対する現在の環境を重視した整備の整合性
- 63 帰化植物、帰化動物など外来種対策
- 64 円山川を特徴づける生き物
- 65 魚類の種数、生息数の減少
- 66 河川計画及び基準と改修の経緯
- 67 上中流部の改修との調整、整合性

- 68 遊水地整備等の際の地域住民の協力体制
- 69 現況河道での実績洪水の再現
- 70 他の河川に比べて採草地が多い（但馬の特徴）
- 71 町と川のあり方（舟運から JR への交通の変化から）
- 72 ゴミの問題（美しい但馬、美しい円山川）
- 73 流域の人々の円山川への関心度合いの調査（意識調査）
- 74 過去の円山川の改修計画の評価
- 75 四季を通じての円山川の美しさの保存（景観）
- 76 経済的な視点からみた整備計画のあり方
- 77 圃場整備による水田からの水の流出形態の変化の影響
- 78 コンクリートや人工物での整備が進んでいる
- 79 コウノトリが羽ばたける豊かな環境
- 80 昔は、地域の人達の協力によって、子供たちが水に親しめていた
- 81 豊かな自然環境を維持することと基本的な安全を守ることの調和
- 82 安全性が保たれながら環境に配慮した治水のあり方
- 83 安全情報など流域住民がもつ河川情報の認知及び周知
- 84 古くから有効に使われてきた治水手法の整理
- 85 古くから有効に使われてきた利水手法の整理
- 86 河口域の穏やかで、豊かな流れの景観
- 87 円山川のシンボルとしての下流域の風景、景観
- 88 自然を残しながら安心、安全に暮らせる円山川
- 89 人の社会環境を守っていく上における自然環境を損なわない状況の模索
- 90 洪水時、どこが一番被害を受けるのか
- 91 治水と環境保全の 2 点をバランス良く考えていく
- 92 円山川の持つ素晴らしい景観の整理
- 93 安全を重視しつつ、その他の円山川に関する良いこととの融合性
- 94 社会的、心理的に川が遠くなっている
- 95 地域になじんだ計画
- 96 人と川の付き合い方の情報の整理（地域性、歴史性から）
- 97 但馬は兵庫県の中でも特殊な地域（人口が集中していない）
- 98 どのようにすれば、住民が親しめる川になるのか
- 99 整備の妥協点の模索とそれに見合った防災対策
- 100 整備の妥協点の模索とそれに対する環境保全対策
- 101 流域全体の保水力を高めるといって治水方法の可能性
- 102 日常生活の中でどこまで洪水と妥協できるか、かわす生活ができるか

【アンケートでの意見】

- 103 流域全体としての保水機能
- 104 風景としての円山川
- 105 子供や大人が自然に触れる、遊ぶことのできる河川
- 106 生活の場としての円山川
- 107 川へのアクセスポイントの整備
- 108 必要な水供給のできる円山川
- 109 人々が安全に安心して暮らせる円山川
- 110 川に生き物があふれる工夫
- 111 山から海に水をゆっくり流す工夫
- 112 流域の人々の暮らしからの声
- 113 地域の日常と密接に関連していることが感じられる景観
- 114 人と川の日常的な関わり
- 115 希少生物の生育、生息する円山川
- 116 ゴミが捨てにくい環境づくり

【ヒアリングでの意見】

- 117 平常時の人と川との接し方
- 118 川遊びができる川づくり
- 119 社会情勢指標を含めた治水計画
- 120 水害を100%なくすのではなく、被害を小さくする方法